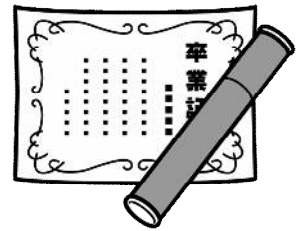




感謝にあふれ心温まる卒業式でした

3月6日(木)第67回卒業証書授与式を行いました。厳粛な雰囲気の中で証書の授与が進みました。その中で、今年は卒業生一人ひとりの返事の声の大きさが際立っていました。

その後に、卒業式実行委員会主催の第2部を行いました。2年生の代表のことは、卒業生の3人の代表のことは、全校合唱、いずれも心に響く素晴らしいものでした。途中、感極まって言葉につまる場面もありました。先輩への感謝、親への感謝、仲間への感謝、先生への感謝…。人は、感謝のことはを耳にしたとき、心が温かくなり、とても気持ちよくなります。そして、次への意欲がわいてきます。会場にも、感謝の桜の木がディスプレイされていました。その桜の花びら1枚1枚には、1, 2年生から3年生に贈る感謝のメッセージが書かれていました。そのまわりには、3年生一人ひとりの夢が書かれた蝶が舞っていました。



実行委員の皆さん、卒業生を送る会、そして卒業式第2部の企画、運営ありがとうございました。

卒業生の皆さんへ 杉浦 綾音(2-3)

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんと共に過ごした日々は、私にとってとても大切な思い出です。その中で、特に心に残っているのは部活動です。

私が所属する吹奏楽部の先輩は、明るく、優しい、素晴らしい先輩方です。今年度、顧問の先生が変わり、今までの練習内容が変わった時にも、とまどう私たちを支え、引っ張ってくれたのは、先輩方でした。どんな状況でもよりよい演奏を目指し、前に進むとする先輩方の姿は、私の憧れであり、目標でした。

そして迎えた三年生にとって最後の大会。先輩たちともっと一緒に、もっと上の大会まで行きたいという思いから、いつも以上に緊張していました。そんな私に「この演奏を楽しんでやろう。」と先輩が声をかけて下さったことで、私はこの演奏をしっかりと楽しもうと思うことができました。

結果は銀賞。金賞を獲ることはできませんでした。大会の後、私は金賞を獲れなかった悔しさと、これまでの練習を思い出し、涙が出てきました。県大会に行くという夢は叶いませんでしたが、想いを語る先輩たちの目はまっすぐで、あらためて先輩方の偉大さを感じました。

部活以外にも、三学年が一同となって戦った体育大会や、合唱コンクールでの美しい歌声など、思い出は尽きません。

そんな先輩方が守ってきたこの東中の伝統を、今度は私たちが受け継ぎ、よりよい学校にしていきたいと思います。

これから先、皆さんが歩む道には苦しいことや悲しいこと、楽しいことやうれしいこと、様々なことがあると思います。一人ひとりの道は違っても、自分の道を一歩ずつ歩いていてもらいたいと思います。

今までたくさんのことを教えていただき、ありがとうございました。これからも夢をもち続け、まっすぐに進んでいて下さい。



部活動から学んだこと 鈴木 創大(3-3)

0対2から3対2の大逆転！先輩たちと挑んだ西三大会で、僕はグラウンドに立ち、喜びを噛み締めました。「来年もこんなサッカーがしたい。」ずっとそう思っていました。

2年の夏、僕たちの代になったとき、最初はとても順調に進んでいきました。試合をすれば勝つのが当たり前、そんな感じでした。しかし、秋の大会が終わったあたりから、部活に来ない人たちが出てきたのです。部長や副部長が説得しましたが、全員そろわない日が続きました。サッカー部に響き始めた不協和音。僕も何かしようと思ったけど、結局何もできませんでした。そんな自分が本当に嫌でした。そして、春のスプリングカップも終わり、西三河リーグの予選になりました。市外の学校と試合ができる重要な大会。でも、僕たちは、悪い雰囲気のままこの大会に突入し、8チーム中7位という最悪な結果を招きました。

最後の夏が近づくと、ピリピリしてきた部の雰囲気。部長や副部長がチームをまとめるのに必死な姿を見て、今度こそ何かできないかと考えました。僕は、部活に来ない人たちに声をかけることにしました。軽く「部活に来いよ。」みたいな感じで。そのうち、他のチームメイトも声をかけるようになりました。すると、次第にメンバー全員が部活に参加できるようになったのです。

いよいよ西三予選。第1試合、高浜南中との戦い。0対1で迎えた後半戦、給水タイムから2点を取り、逆転。やはり、チームがまとまると違うなと思っていたら、雷で試合が中断してしまいました。ベンチに戻ると、一時は来なかったメンバーが、タオルや飲み物を配りながら、みんなに「勝てるぞ」と励ますような言葉を掛けていました。そして、僕と話していたとき…「俺もこういう試合に出たいな。」ぽつりと彼が言ったのです。僕はこの言葉を聞いたとき、本当に嬉しかった…。欠けていたメンバーが部に戻ってきてくれて、全員サッカーがやれていると実感しました。この試合は2対2の引き分けでしたが、その後全勝して予選を1位通過することができました。西三大会は1回戦敗退。けれど、ドリンクを作ってくれたり、応援してくれたりする仲間や後輩たちが見守る中でプレーできたことが、最高に幸せでした。全員サッカー。最後にみんなで戦い、僕自身これまでで一番楽しくプレーし、部活動の幕を閉じることができました。

部活動に打ち込んだ中学校生活。いろいろなことがあったけれど、その分大切なものもたくさん得ることができました。僕はこの経験を生かして、これから最後まであきらめず、何事にも挑み続けます

僕たちのレボリューション 田中宏季(3-5)

「時間が経つのは早い。」3年生になり、改めて思ったこと。この早い時の流れの中で、僕は、クラスの仲間とともに、心揺さぶられる経験を積み重ねてきました。

この学校を変えようと掲げたレボリューション。みんなでやり通そうと決めた家庭学習全員提出。ぐずついた天気なんてお構いなしで、みんなが楽しみ、笑顔になった修学旅行。声が囁れ、へトへトになりながらも努力し続け、勝利を掴んだ体育大会。これ以上にならないまでに気持ちが入った東中祭・合唱コンクール。そして、それぞれの道を歩くための受験…。

喜んだり楽しんだり、苦しんだり困ったり、怒ったり涙を流したり…。話し合い、支え合い、ここでは語りつくせないほど、この1年はいろいろなことがありました。その中で、最も印象に残っているのは合唱コンクールです。

みんなそれぞれ自分の名前、好きな言葉を入れて作った世界でたった1つの歌。3-5だけのみんなの思いが詰まった歌。練習期間は短かったけれど、1日1日がすごく楽しくて、もっと歌っていたいと思いました。あつという間に迎えた本番。結果は惜しくも2位。悔しかった…。すごく悔しかった…。無理に笑顔を作っていたけど、泣きたかった…。

東中祭も終わり教室に戻ったとき、担任の先生のリクエストで、最後にもう一度「僕たちの歌」を歌いました。歌っている途中、ぼろぼろと泣き出す人が現れました。次第に、ほとんどみんな涙を流しながら歌っていました。2位だったからこそ、さらに深まったクラスの絆。僕は、この美しい光景を一生忘れません。

僕は、この合唱コンクールで、初めてクラスのことで泣きました。ここまで必死になれたのは、このクラスのこのメンバーだったからだと思います。そして、いろんな行事で、真剣に競り合い、互いのクラスを高め合えたのは、この学年のこのメンバーだったから、また、僕たちを支えてくださった先生たちがいたからだと思います。僕はこのクラス、このメンバーと一緒にいられて、東中生で本当に良かった…。

ありがとうの一言では伝えきれないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。でもやっぱり、最後に言わせてください。

「ありがとうございます。」

感謝を胸に 今旅立ちます 橋本朋佳(3-2)

中学での3年間、私はたくさんの人に迷惑をかけ、そして支えられてきました。学級役員をやったときには、上手くまとめられず悩む私に、先生たちが何度も相談に乗ってくれました。役員として力不足なのは…、そうやって自信をなくしていた私は、先生たちの励ましで、また頑張ろうと思うことができたのです。

先生に相談できない、そんなとき助けてくれたのは、仲のよかった友達です。一度悩むとなかなか抜け出せずにうじうじしてしまう私に、気づいて声をかけてくれました。一緒に泣きながら話を聞いてくれたり、自分のことのように真剣になって解決策を考えてくれたりしました。私の中学校生活が最高のものになったのは、そんな温かい人たちがたくさんいたからです。

ですが、誰よりも一番迷惑をかけてしまったのは両親でした。私の父は耳が聞こえません。小さいころはそれが普通でした。けれど中学校に入ってから、そんな父との会話が面倒だと思ふことがありました。私は少ししか手話を覚えてないので、父と会話するときは口を大きく動かすか、紙に書いて伝えるしかありません

でした。疲れているとき、悩みがあるとき、上手いかわないことだらけのとき、そんな会話方法が面倒になって、聞こえない父を遠ざけてしまうことも少なくありませんでした。私が父と険悪になってしまったとき、間に立ってくれたのは、いつも母でした。自分勝手だということは分かっていたけど、あのときの私は自分のことで精一杯だったのです。思春期、反抗期と一言にまとめても、家族を傷つけたことに変わりありません。本当に周りが見えていなかったのだと、すごく後悔しています。

この3年間でそんな経験をした人はたくさんいると思います。だからこそ、今まで自分を支えてくれた全ての人に感謝の気持ちを持ち、これからの人生を最高のものにしていく、それこそが恩返しになると信じています。

これまでにもらった抱えきれないほどの愛情を、新しい道へと進む勇気に変えて、私たち 188 名は、いま、旅立ちます